

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500155		
法人名	愛らいふサービス株式会社		
事業所名	ラ・セゾン		
所在地	大阪府池田市井口堂3丁目10番7号		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族、医療関係者、地域の方、職員同士が協力し合い、情報を共有し、チームで支援できるように努めています。ご家族とは常に連絡を取り合い信頼関係が築けるよう努めています。医療面では管理者が看護師という事もあり、医療の目からも異常の早期発見に努め、系列の訪問看護と連携を図り、素早い対応を心掛けています。また、職員が一人ひとりの考えや意見を傾聴し、その人に愛とまごころを持って寄り添ったケアを目指しています。また、利用者様の生活史や、好きなことなどをレクリエーションに取り入れるよう努め、毎月のイベントにも力を入れています。そして必要に応じて研修を行い、職員全員がスキルアップに努め、事業所の理念でもある「その人らしい暮らし」が利用者様全員が送れるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は代表者が看護在職の中で、地域の方々から介護事業業への強い要望を受けて、ケアプランセンター・訪問介護・介護タクシー・訪問看護・通所介護・そしてグループホーム開設へと進め10年になる。最寄駅より徒歩6分、幹線道路を入った住宅地に1階に通所介護を併設し、2階に1ユニットのグループホームを運営している。地域には自治会組織はなく近隣住民に毎年挨拶に出向き交流に努めている。近所の方から果物や野菜を頂き、花壇の散歩時に挨拶を交わし交流に努めている。法人の名称「愛らいふ」を大切に、愛とまごころ、人・仕事・会社・そして自ら愛を実践することを目標にしている。利用者へ寄り添い、コロナ禍では体操・カラオケ・ゲームや、洗濯干し等家事を職員と一緒にし閉塞感の解消をしている。管理者・職員・看護職員(2名)皆で利用者の日々安心した生活の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで話し合い、地域密着型サービスをふまえた事業所理念を共有し、理念に基づいたケアを実践しています 「その人らしい暮らしを地域と共に愛とまごころでよりそう」をダイルームに掲げています	法人理念を掲示し、事業所理念は職員皆で考え「その人らしい暮らしを地域と・・・よりそう」として1文字ずつ色紙に書きリビングに掲示している。又毎月ミーティングで目標を決め話し合い、11月は「感染対策」手洗い・うがい・換気・マスク着用として、ホワイトボードに書き皆で実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染予防の為現在、地域活動の中止などもあり参加が難しい状態です 近隣の高校生より季節のポスターを頂き壁に飾らせて頂いたり、入居者ご家族様の畑で取れた野菜を頂いたり、お隣の木のみかんを頂くこともあります 今年も夏祭りはありましたが、コロナ感染予防にて参加していません	自治会組織はなく民生委員が訪ねて来てくれ校区の情報などを教えてくれる。近くの女学校の生徒が定期的にポスターを書いて持ってきてくれている。今期は新年の挨拶を書いている。近所の方から野菜や果物の差し入れを貰い、事業所周りの人には毎年挨拶に出向き交流に努めている。今後は以前のように中学生の職業体験を受け入れる用意がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常では運営推進会議の出席を促進したり、病院などで行っている勉強会に参加したりしていましたが、今回コロナ禍の為、これらの活動は差し控えています	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営委員会推進会議は、書面開催としており活動記録報告書は市や民生委員、系列の居宅事業所のケアマネージャー、ご家族にも送付し閲覧してもらい意見を求めています	運営推進会議は書面開催としている。行政の支援課・民生委員・家族に事業所のヒヤリハット・行事報告等現況報告を送っている。意見や情報を貰い貰った意見を記載した議事録の作成には至っていない。	運営推進会議は地域密着型事業としてより広く地域の方々・知見者等に会議参加を呼びかけられることが望まれる。貰った意見を記載した議事録を関係者に送付し事業所でも開示されることが求める。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	池田市のグループホームの会が今までは、3ヶ月に一度ありましたが、コロナ禍より現在は休止されています 市の地域支援課とは連絡を取り、事故報告などの対応などを相談し、今回は、コロナクラスター発生時にも報告・連絡・相談を行っています	市役所の支援課に事故報告や会議録等書類の提出や後見人制度の手続き等に出向いている。相談や分からない時は電話で聞いている。コロナクラスター時は保健所より情報を得て、毎日状況を伝えていた。マスク・フェイスシールド・アルコール・手袋の支援物資を貰っていた。グループホーム連絡会に所属しているが現在は休止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で研修を行い、身体拘束の内容とその弊害は全員が認識し、身体拘束適正化検討委員会を設置し、3月に一回会議を開き利用者の人権を守るよう努めている なお、玄関出入口の施錠はしていない	年2回の身体拘束についての研修を実施し、マニュアル・指針がある。身体拘束適正化のための委員会を3か月に1度開催している。職員は議事録で身体拘束の事例を確認し(何気ない態度・忙しい時は)等、反省コメントを記して、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は開放しているがエレベーターは職員と移動としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に、高齢者虐待防止関連法について研修を行い、施設内での虐待が見すごされることのないよう利用者の身体状況・精神状況にも注意を払い、また虐待防止検討委員会を年2回行い、職員間で気付くこと、話し合いが出来ることによって防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行い、必要時には支援できるようにしています 実際に制度を利用されている方もおられます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また重度化に伴う医療費負担についてもご家族と話し合っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時やお電話にて面会や外出についての要望がありますが、コロナの感染状況や大阪府の通達に合わせています	家族の意見は電話や訪問時に要望を聞いていて、散歩をさせてほしいとの要望が有り、近くの花壇やお地蔵さまにお参りに出かけている。利用者には日々寄り添い話しかけ思いを聞いている。家族には2ヶ月に1度事業所だよりに写真も載せ、利用者の日々の様子を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や大事な決定事項は、現場の職員の意見・提案をミーティングによる聴きとりや個々に面談を行うなど機会を設け、反映させ、活かしています	毎月職員会議を開催し業務の事や困っていることを話し合い、物品の購入の要望は法人に伝え相談して購入している。管理者面談、法人理事の訪問も随時あり相談をし職務改善が行われている。職員はレクレーション・部屋・会計・非常物品の係を受け持ち運営をになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、処遇改善加算の取得や研修の機会・有給休暇の取得により、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め、技術や知識を身につけていくことを支援しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍より、池田市グループホーム会や勉強会の活動が縮小されている為、参加していないが研修動画などを取り入れています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴することでお困りごとと不安なことを察知し、顔なじみの職員が寄り添い対応しています 本人が上手くお話できない場合も表情や日常の様子から読み取るようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意思とご家族の意思を傾聴し、相互話し合いを重ね、関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の必要とするサービスをまず見極める為にしっかりと話し合いを行い、他のサービスを含めた対応をしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であり洗濯物を干したりたたんだり、一緒にできる家事を行うことで本人のできることを増やし、一緒に生活している関係を作っています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話などでご家族に状況の報告を行い、近況を知ってもらうにしています また、面会を行い直接お話できるようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人の生活歴を知り馴染みの人からの電話を受けることもある(個人情報には十分注意する) ・馴染みの職員の対応で生活の安定ができる	家族や友人が面会に来てくれている。家に帰りたい利用者の話を家族に伝え、外泊を実現している。電話の取次ぎをしたり、アイパットを利用して家族とテレビ電話で話している。幼馴染の職員と会話を楽しんでいる。ユーチューブで懐かしい歌を聞いたり景色を見て会話に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することのないようにデイルームなどではテーブル席の位置を考え移動したり、職員が間に入り関係ができるように促しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにて本人の生活史など把握し、職員で共有しています 日々の生活の中で日常会話や会話が上手くできない方に関しても利用者の表情や状態を観ながら日頃との違いを観察し本人本位に出来るように努めています	入居時に生活歴や趣味やしたいことを聞きフェイスシートを作成している。利用者の聞き取りは家族や関係者等から細かく聞いており、日々の話や暮らしの中で得た利用者の情報は記録して職員間で共有し、利用者の思いに添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やアセスメント、日常生活の中で観察し、自分らしく暮らして頂けるように、これまでの暮らしの把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々観察、洞察、気づき等、意見を出し合い、みんなで共有し、カンファレンスをその都度行い話し合う機会を設けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・医療と連携し、現状に即した介護計画を作成している。また、本人の状態の変化に合わせ、臨機応変に介護計画は見直ししています カンファレンスやモニタリングを基にご家族様の意向を反映しています	介護計画は短期目標3か月・長期目標1年としている。計画作成時は家族の意見を聞いて医師の所見を取り入れ、看護師の意見やモニタリングを参考に、担当職員と担当者会議を開催して作成している。利用者の状態に変化があれば関係者に連絡し介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、現状に応じたケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策として面会をリモートにしていますが、施設や地域の感染の状況に合わせて面会をリモートにしたり直接面会や外出も可能にした時もあります また、食事についても食べれるものを食べれる時食べて頂くようにするなど、柔軟に対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前はお祭りの参加やボランティア・訪問マッサージなどの利用を行っていたが、現在は自粛しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2ヶ所のクリニックの医師がそれぞれの入居者の主治医となり訪問し、体調の変化時もスピーディーに対応していただいています また、歯科医の往診もあります	協力医療機関2ヶ所から、内科医訪問診療を月2回受け、歯科も全員が月1回訪問診療を受けている。通院治療が必要な場合は家族及び職員が同行受診している。他科の整形外科や定期的な受診は家族が同行受診し結果は家族から報告を受けている。緊急時の病院等の受診は家族に状態を報告し管理者が同行受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、常にご利用者を観察し異常や変化の情報や気づきを、いち早く職場内の看護師や訪問看護師等に詳しく伝えて相談し、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けれるよう支援しています。また、かかりつけ医・看護師にも連絡・相談を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の対応、また、退院時も病院スタッフ、ご家族との情報交換を行い、早期に退院できるよう対応しています かかりつけ医にも退院時の連絡を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、段階ごとにご本人・ご家族・主治医等ケア関係者と意向を確認しながら、事業所でする事を十分に説明し、対応方針を共有し、その都度ご家族や医療関係者と連携を図り、共にチームで支援に取り組んでいます	入居契約時に重度化・終末期について事業所で体制等を説明し、同意書に署名捺印を受けている。状況状態変化時に再度主治医から説明を受け、看取りケアを希望される場合は家族の想い意向を聴き取り、その都度勉強会・カンファレンスを行ない関係者と連携して看取りケア支援を行っている。前年度1名の看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに応急手当・初期対応の訓練はしている。急変や事故発生時は職員・ご家族・医療機関と連携しています。感染防止委員会により研修を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に防災コンサルタントのりたテクニカと共に実際に報知器のサイレンを鳴らし器具の点検をし利用者の状態に合わせた避難方法で行っています。運営推進会議などで地域の方に協力をお願いしている。水害訓練も(垂直避難)実施しています	消防避難訓練を年2回行っている。6月夜間想定自主訓練を行い池田市消防署に報告書提出し、BCP書類は作成済みである。備蓄品は米・水・缶詰・ラーメン・カセットコンロ・充電器などを完備している。職員連絡網はラインワークスと書面はフローチャートで事務所の机の中に、有事の見守りは地域の人や隣家の人に声掛け依頼し、職員は家族と隣家に在住し協力体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の表情や言葉をしっかり傾聴し、一人の人としての人格を尊重した声掛けを行い、本人の認知症の状態や身体状況に合わせて対応を行っています	利用者の部屋に入る時、ドアをノック声掛けして入室、特に着替え・排泄・入浴時は羞恥心・プライバシーに配慮して支援している。年間研修計画の中で接遇マナー・個人情報保護等の研修を行い尊厳を持って状況・状態に合わせた対応ができるよう声かけ支援している。個人情報書類は鍵付き書庫で保管管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、信頼関係が築けるよう取り組み、本人の希望や願いを意図的に引き出すよう取り組んでいる。また、自己決定できるように働きかけています (例えば、着る服の色を選んで頂いたりすることで)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望んでいるペースに合わせて動きや状態を見守りながら、一日の過ごし方を柔軟に変え支援をしています (例えば、食事の時間や召し上がり方など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装を選んで頂き、その人らしい身だしなみが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は元すし職人の方が献立から行い希望に合わせてメニューを柔軟に変更することもあります。また、おやつレクレーションを行っています 食前にテーブルを拭いて頂くことや片付けのできる方にはお願いしたりしています	1ヶ月の献立表を料理長が作り家族にも送付している。季節料理・行事食は毎月あり、正月は手づくりのおせち料理をお品書きを添えている。朝食は夜勤者がご飯・味噌汁・野菜小鉢2皿だしている。外食は現在中止しているが、室内で楽しむおやつレクレーションは月2～3回お行い、お好み焼き・タコ焼き・鯛焼き器で利用者と一緒にあんこたっぶりの鯛焼きを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を観察し、食べる量・カロリー不足・栄養の偏り・水分不足が起こらない様十分に気を付けている。また、食べ物・飲み物の好み・食事形態・食べるタイミング、嚥下の状態などにも配慮を行って支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力を把握し、毎食後口腔ケアを行い、上手くできない方には介助し口腔内の清潔保持に努めている。また、定期的に訪問歯科で受診していただくようにしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より個々のパターンを把握し、時間少し前にそれとなく声掛けトイレ誘導をしています 排泄状況に合わせてパットやリハパンの選択をしています 現在布パンツ2名、リハパン3名、おむつ3名、夜間は安眠妨害にならないように4時間おきに確認しています	排泄チェック表を参考に日中は声掛けトイレ誘導している。殆どの利用者はリハビリパンツにパットを併用している。夜間のおむつ使用者は2～4時間で個別対応し安眠を重視して支援している。病院にしばらく入院し退院後、事業所に戻り声かけ対応でおむつ使用からリハビリパンツに移行した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として体操を行い水分補給や繊維質の多い食事を提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本とし、利用者に無理強いすることなく、一人ひとりの意向を第一に体調を見ながら、時には音楽をかけながら、くつろいだ気分で入浴できるように心がけて支援しています 寝たきりの状態であってもシャワー浴を行えるようにリクライニングチェアを利用し清潔で快い状態が取れるように支援しています。また、体調によっては清拭、足浴・手浴に変更しています	身体状況により人数は変わるが、午前中2～3人午後から1人位でゆったりと浴槽に浸かり、見守り介助と会話しながら入浴を楽しんでいる。機械浴とシャワーキャリー・シャワーチェアがあり、介護度により使用でき利用者と職員も安全に入浴支援が出来る。入浴後は保湿剤を塗り、女性は化粧水を準備している。入浴剤シャンプーは施設で準備している。冬至の季節に「ゆず湯」を行い、香りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や一日の流れで活動状況・体調など総合的に把握し、適度に休息を持ちながら夜間安眠の為、日中の活動量を増やす支援を行っています。また、日中も疲労の状態を観てベッドで休んでいただけるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法・用量を理解し、呼称・ダブルチェックを行い、服薬忘れや誤薬を防いでいる。本人の状態の経過や症状の変化を観察記録し、医療関係者に情報提供は必ず行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつレクや食レクの時間を通して、気分転換できるように努めています。それをケアプランにも反映しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍より、以前のように積極的な外出支援はしていないが、天候や利用者の体調に合わせホーム周辺でフラワーガーデンへかけるなど近辺への散歩を個々で行ったり、寝たきりの方にも1F玄関から外に出て外の空気を吸って頂いています	以前は公園まで弁当持参で外出していたが、現在はインフルエンザ流行期でもあり、法人指示で外出は自粛中で外気浴として玄関先に出て日光浴しながら気分転換している。7月～10月迄は自宅に外泊や家族と外出の人もいた。感染状況を観ながら伊丹空港迄のドライブを予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、スーパーへ出掛けることは自粛しているが、コロナ前は行っていました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が携帯電話を持っておられ自身で連絡を取られる方や、他の方は電話やラインを用いて家族様との会話やオンライン面会を援助しています。また、携帯電話に写真をお送りし様子をお伝えしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などの共用の空間に入居者様と職員と一緒に作った季節を感じれる作品などを飾ったりする、自分の力でその人らしく安心して過ごせるように、また、危険防止や清潔感に配慮し、生活感・季節感を取り入れ、居心地よく自由に過ごせるよう取り組んでいます。また、ぼすたーは近くの高校生が季節ごとに持って来て下さっています	空気清浄機をリビングルーム・職員室、相談室に各1台設置し職員はマスクアルコール手指消毒して、利用者は手洗い支援で感染予防対策を行っている。季節の壁絵、花の絵(コスモス・ダリヤ・りすもみじ・イチョウなど)を飾って居心地よい雰囲気である。季節毎と正月のポスターを女学校(高校生)が持参している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時などは静かな空間を提供し、気の合った利用者様同士で積極的にお話できる環境を整えています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで本人が慣れ親しんでいた家具など持ち込みもあり、安全を考慮した配置にして本人が心地よく過ごせるように環境に配慮しています 季節を感じ、わかるように居室の壁面にも飾りを施しています	居室は大きな表札(利用者と職員と一緒に作る)があり自室を解り易くしている。防災カーテン・扇風機・ベッド・クローゼットがあり、転倒防止のジョイントマットが敷かれている。各自が家族写真・テーブル・机・小筆筒・テレビなど配置し、居心地よく過せる工夫がみられた。寝たきり利用者の壁に折り紙の作品が眺められるように掲示されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた、自分の力で動けるよう個別の設備・道具を設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような工夫に努めています		